

温故知新 IIN30 年記念行事 大門寺

秋の深まる中、11名のお客様をお迎えして、企画メンバー8人が大門寺を訪問させていただきました。紅葉には早いのではないかと心配を余所に、今秋、最高の紅葉で大門寺が私たちを迎えてくれます。駐車場から、石路の咲いている道を登り、木で造られた階段を上ると、石垣下の道沿いにはホトギスの花が咲いています。

反対側には、水仙の葉が青々と初春の準備をしています。

もう少し登ると、まだ朱色の紅葉が青い葉の中に光っています。

苔むした道を辿ると、山門では、菊の大輪が何本も並んで私たちを迎えてくれます。

山門をくぐると、真っ赤な紅葉が目も欺くばかりに、空の中に待っていました。



暫し、お庭を散策してから、菊で飾られた入り口を入り、大きな土間から上がりかまちで靴を脱ぎ、応接にお通しいただきました。

お客様は、掛け軸の「無」や「福聚」に興味津々のご様子です。

また、ご住職の奥様の生けられた美しい花の写真を何枚も撮られていました。

阿武山の借景を臨む部屋で寛いだ後、大門寺の簡単な説明がご住職よりございました。

8世紀の終わり頃に創建され、空海が訪れたとされる真言密教のお寺である。

残っている文書によると江戸時代から数えて21代目が現在のご住職とのことです。

この後、お庭を拝見しました。

豊臣秀次の家臣の木村常陸介が、主君に殉じて切腹したと言われる場所を回り、本堂に入りました。

本堂では、ご住職からお勤めに関する諸事のご説明と、重要文化財である秘仏の如意輪観世音菩薩と四天王像のご説明をいただきました。



ここで、ご住職は次の予定が入っておられ、横浜に向かわれるため、ご子息の副住職が、私たちのお世話

をしていただくことになりました。

この後、茶室に入り、お茶をいただきました。

先日のワークショップで予習しておりましたので、皆様、少し余裕を持っておられたように見えました。掛け軸は「春蘭秋菊供不可廃」です。



因みに小さな花瓶のお花は、奥様にお伺い致しましたところ、椿・ホトギス・紫式部でした。縁側の向うには、昔懐かしいガラス戸を通して、紅葉が命を燃やしているのが見えます。庭に設けられた野点傘と緋毛氈が、緑の苔の上に色鮮やかでした。

次は、場所を移し、能面拝見です。

玄関には、またもや大輪の菊です。障子を開けると、松の盆栽が静寂の中にあり、その向う側に般若と中将の面が飾られていました。次の間に行くと、小面、孫次郎、増女、翁の面が並んでおり、皆さんの歓声にほっと致しました。広瀬さん(能面の作者)から、それぞれの面についてのご説明をいただき、質疑応答に入りました。能面の作り方、能の演じ方や能の歴史など多岐にわたるご質問がありました。



この後、記念撮影を行いました。



ふと見ると、Mさんが庭先の蹲(つくばい)を使っておられます。

Dさんも、同様にお使いになりました。Dさんは、実は、能を良くご存知で、京都でご覧になったこともあるそうです。

この後、高槻にある「美人の湯」にお連れ

れて、旅の疲れを取っていただきました。

Nさん、Sさん、Kさんにそれぞれのお宿まで送っていただき、この日の行事を無事終えることができました。

